

# 喜びを伝える言葉 松井文庫所蔵古文書より

■江戸時代の手紙に登場する「喜び」を伝える言葉



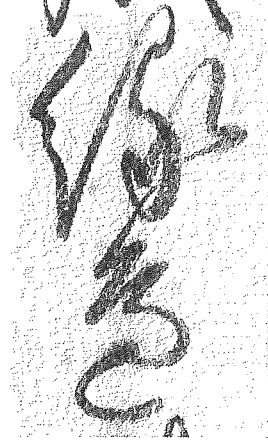
満足(まんぞく)



目出度(めでたし)



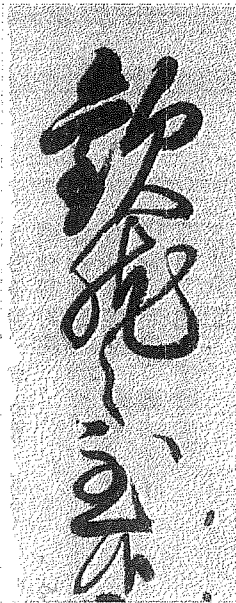
祝言(しゅうげん)



縁辺(えんべん) || 結婚



祝着之至候(しゅうちやくのいたりにそうろう)  
|| このうえなく喜ばしい



欽然之至候(きんぜんのいたりにそうろう)  
|| このうえなく喜ばしい



大悦(たいえつ) || 大きな喜び



大慶(たいがい)  
|| このうえなくめでたい



珍重(ちんちょう)  
|| めでたい



おもしろキ(おもしろい)

細川綱利の結婚を祝う

いなばまさのり  
①稲葉正則書状 松井寄之宛 江戸時代前期 寛文3年(1663)



幕府老中の稲葉正則が熊本藩主細川家の家老松井寄之に宛てたもの。熊本藩主細川綱利の結婚を祝う言葉が述べられています。

【釈文】

猶々、我等無事  
居申候間、可御心安候、  
爰元之様子、帯刀へ  
可有物語候、以上、

一筆令啓候、越中守殿、  
首尾能御暇、其上、  
結構成縁邊被  
仰出、御祝言、万事無  
残所相調、目出度、各  
大悦之段、察入候、将又、  
同姓帯刀殿、  
御目見被 仰付、  
忝可被存与、是又、令  
察候、今般、当地久々  
逗留、越中守殿より  
(折返し)

切々御使ニ被参、御用之儀共  
申承候処、万事入念、  
越中殿御為、残所無之  
様子ニ候間、可為安堵候、  
大儀成事ニハ存候へ共、来春も、  
帯刀殿御供、可然候半由、  
加々爪甲斐守なども被申候、  
我等も左様存事候、猶、  
追而可申承候、恐々謹言、

八月七日 稲美濃守 正則 (花押)

長岡佐渡殿 御宿所

【現代語訳】

お手紙差し上げます。

細川綱利殿に結構な縁談が仰せ出され、祝言が無事調ったとのことめでたいことです。皆様お喜びのことでしょう。はたまた、あなたのご子息松井直之殿については、將軍様へのお目通りの許可を得られ、かたじけなく思っておられることと推察します。直之殿は綱利殿の御用を滞りなくつとめられていますのでご安心ください。大儀なことですが、来年の春も、直之殿が綱利殿の御供をされるのがよろしかろうと、加々爪直澄殿なども申されています。私も同意見です。

追伸。私は無事に過ごしていますのでご安心ください。こちら(江戸)の様子は直之殿から伝えられるでしょう。